

ア ッ ピ ー ル

本日、韓国の日本軍「慰安婦」被害者の方たちが、この問題の責任者たちを戦争犯罪および人道に対する罪で厳罰に処するよう告訴状を東京地検に提出されました。韓国挺対協も同じ旨のもとに告発状を出されました。

ここに至った被害者の方たちの心情を思うとき、私たちは日本政府のこれまでの対応を実に恥ずかしく残念に思わずにはおれません。

アジア、太平洋地域の方たちの夥しい生命をいわれなく奪いながら、そのことを心に留めずにきた日本の戦後があったことを改めて思います。

日本軍「慰安婦」問題について、とりわけ、私たちは長く、本当に長くなおざりにしてきました。1988年から始まった韓国の女性団体の方たちの鋭い問題提起と諸活動、日本政府への要請・抗議によって私たちは初めて目を覚ましたのです。そしてついに名乗り出られた被害者たちの凛とした証言によって、この悪業の深刻さ、また被害者たちが戦後の半世紀をいかに惨苦の中で過ごされたかを知りました。

いまや被害者の方たちは、韓国はじめ日本軍が占領した各地・各国で続々と名乗り出られ、国連人権委でもこの問題が取り上げられるに至っています。その怒涛のような流れに対して日本政府は一度も真摯にこの問題に取り組もうとしては来ませんでした。まず、関係ないと言い逃れ、逃れぬ証拠をつきつけられると口先だけの謝罪や調査報告をおこない、は補償に代わる措置という名のいくばくかのお金によって終息させようともくろんでいす。被害者の方たちの奪われた人権を少しも考えていない態度といえましょう。

そして、そのような政府を作っているのは私たち自身でもあるのです。私たちは、私たち自身の手でこの問題を究明し、深く反省し、次代に伝え、二度と繰り返さないためのさまざまな努力を行うことを半世紀にもわたって怠ってきてしまいました。

その結果として、今もこの日本の空の下で新たに性奴隷にされて呻吟している東南アジアの女性たちがあまた有り、憲法違反による自衛隊海外派兵が行われ、被害者の方たちの恨(ハン)はいまだ晴らされないままです。

奪われた人権の尊厳を取り戻すために被害者の方たちが長い沈黙を破って立ち上がられ、本日、責任者処罰を訴えて告訴状を出されたことを私たちは重く受け止めました。

この問題にかかわることは、ゆがんでしまっている私たち自身の人間回復の運動でもあるのではないのでしょうか。

凍った冬の季節のなかでも、地下の種たちは春の訪れを待ってひそかに準備を整えているでしょう。私たちもまた、被害者たちの恨に春の水がそそぎはじめる日の近いことを願って、そのためにもてる力を注いでいこうと思います。

勇気ある闘いに立ち上がられた日本軍「慰安婦」被害者の方たち、韓国挺対協の方たちに深く敬意を表し、私たちもまた自らの手で日本の戦争責任を糾明して参ります。

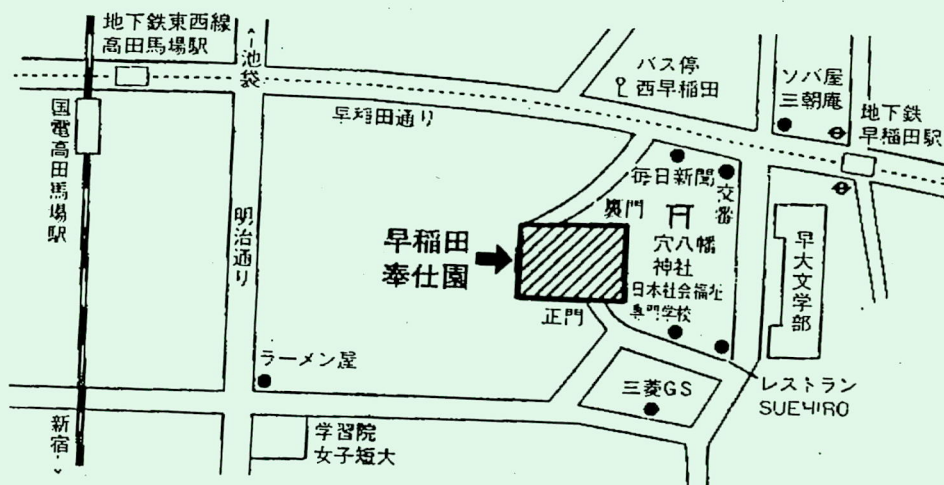
1994年2月7日

「元日本軍「慰安婦」による戦争責任告訴・告発」緊急報告集会において

戦争犯罪告訴・告発を受けとめて

参加費 700円

日本軍「慰安婦」に対する責任者への告発状を提出するため、
韓国から来日されたハルモニたちを囲む緊急報告集会を致します。
ご参加下さい。



主催・「緊急」報告集会実行委員会

連絡先・Tel 03-3203-0372 NCC（カーター愛子）